

## 校長あいさつ

山形県立鶴岡中央高等学校

校長 兼 子 由 香

山形県立鶴岡中央高等学校は、平成10年に県立鶴岡家政高等学校と県立鶴岡西高等学校を統合して設立された普通科と総合学科を有する学校です。その建学の精神を受け継ぎ、本校のめざす生徒像を表現した「立志・気づき・共生」を校訓としています。

本校は、JR鶴岡駅から徒歩15分、北に鳥海山、東に月山を望み、庄内平野の大地に立ち、加えて「鶴岡サイエンスパーク」として多くの研究施設等が集積する地域にあり、素晴らしい自然と文化にあふれる環境の中にあります。

このサイエンスパークで世界最先端の研究開発をしている慶應義塾大学先端生命科学研究所（IAB）とは、「U-18研究助手制度」を通じた高大連携を結んでいます。この制度を利用し、IABの研究助手に採用された多くの鶴岡中央生が世界最先端の研究の一翼を担っています。

また、地元鶴岡は伝統的産業の絹生産地であり、「サムライゆかりのシルク～日本近代化の原風景に出会う町鶴岡」として日本遺産に認定されています。本校生徒は「シルクガールズ」として、鶴岡市のシルクタウンプロジェクトに参加したり、保育施設や小学校と連携した出前授業を実施するなど、様々な分野で地域やふるさととの共生をめざしています。

このように、普通科の「総合的な探究の時間（キャリア探究）」における地域課題研究や総合学科の課題解決型学習では、現代社会や地域社会の課題を高校生の視点で捉え、考察し、解決策を提案する活動を通して、思考力、判断力、創造力、表現力の向上をめざした取り組みを行っています。

このように地域に根ざした教育活動を推進し、地域の皆さまに愛され、必要とされる学校として教職員・生徒・学校関係者が一丸となって、活力あふれる学校づくりを進めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

### 山形県立鶴岡中央高等学校 スクール・ミッション

探究する学びと仲間や地域との関わりを通して、学ぶ楽しさを知り、社会で活躍できる学力と豊かな人間性を身に付け、「夢を夢でおわらせない力（立志）、いつもだれかを思って考えられる力（気づき）、ふるさとのために活動する力（共生）」を持った、次代を担い、地域を担う人材を育成します。